



epooca

エポカ vol.130

静岡県男女共同参画センター・あざれあ情報誌

2018年2月号

特集 グローバルマザーとして生きる

がんなどの病気で妊娠ができなくなった皆さんへ

家族がふえたよ
～里親制度・特別養子縁組について～



ぼくたちと小さな女の子は
一緒に暮らしはじめた。



春も夏も秋も冬も、一緒に。

1年後、ふたりと小さな女の子は
ひとつの戸籍になったんだ。



そして、ふたりは小さな女の子と
特別養子縁組の手続きをした。



家族がふえるってうれしいね。

冊子：『家族がふえたよ
～里親制度・特別養子縁組について～』
発行：日本財団・認定NPO法人 オレンジティより

この人に聞く！

河村 裕美さん（認定NPO法人 オレンジティ理事長）



★がんになって感じたこと

結婚して一週間後、32歳の時、子宮頸がんが診断され、子宮と卵巣、リンパ節を摘出する広汎子宮全摘手術を受けました。それまで病気とは無縁の人生でしたし、その時結婚したばかりで前途洋々たる未来を思い描いていたので、「あなたはがんです」という宣告を受けた時にはすんなりと受け入れがたいものがありました。宣告を受けた後、これからの自分の人生について考えてみた時、不思議と「自分の体はどうなってしまうのだろう」とか「私は死んでしまうのだろうか」など、自分の身体や生死について思いめぐらすことはほとんどありませんでした。それよりも心の大部分を占めていたのは、「夫に悪いな」という思いです。そして、孫を楽しみにしていた双方の両親に申し訳ないという気持ちでいっぱいになりました。結婚生活は、子どもがすべてではありませんが、それも生きていく上での一つの社会的営みです。そのとき、「もう子供を産めない」という事実は、私にとってかなりショックでした。

★患者会オレンジティを立ち上げる

術後は、さまざまな後遺症に悩まされてきました。排尿・排便障害、リンパ浮腫、卵巣欠落症候群（更年期障害）、性交渉の問題（性機能障害）など、術後20年ほどたった今でも、付き合い続けなければならない後遺症もありますし、中にはデリケートで話しにくい悩みもあります。

診断から手術、後遺症など、がんをめぐる一連の体験は、具体的な行程や症状として現れてきます。死生観など漠然としたもの、一般論では語れないものについてではなく、具体的な体験や後遺症の悩みを共有し、生きていく上での現実的な情報交換をしたい、そういう場を静岡にも作りたいたいと思い、2002年患者会オレンジティを立ち上げました。オレンジティの「おしゃべりルーム」には、子宮頸がんなどの婦人科のがんや乳がんの体験者が集まり、おしっこをどうしているとか、パットはどこのものを使っているとかなど、実際的な話で盛り上がります。

オレンジティの活動を続けている中で必要性を感じているのが、検診の大切さです。現在、子宮頸がんの発症が若年化し、若くして亡くなってしまう人が増えています。子宮頸がんは、検診で早期発見できるというのがWHOでも認められていますが、日本での検診率は20%ほど。そこで、子宮頸がんの特化した啓発に取り組もうと、一般社団法人ティール&ホワイトトリボンプロジェクトを2009年に設立し、がんの知識や検診の有効性を普及・啓発するため、講演やイベント、冊子の作成・配布、女性の意識調査の他、子宮頸がんの患者の就労やサポートに取り組んでいます。

★選択肢の一つとしての里親・養子縁組

子どもを産むことはできないけれど、子どもを育てたいという気持ちはなくなりませんでした。代理母や受精卵の凍結なども検討しましたが、莫大な費用がかかるなど、私たち夫婦にとって現実的な選択肢ではありませんでした。

2011年に里親制度に登録しました。結婚前、仕事で児童相談所に配属され、児童福祉司として里親担当をしていたことから、里親制度は熟知していましたし、実際に特別養子縁組のケースワークなども行った経験がありました。手術直後にも、里親になろうかと考えたこともありましたが、病気をした自分が里親になってもいいのか、再発したら子どもの幸せはどうなるのだろう、夫に迷惑をかけるのでは・・・と躊躇していました。年月が経ち、身体も回復し、夫とも話し合い、里親登録することにしました。

その後、特別養子縁組をし、かわいい女の子と私たち夫婦は家族になりました。今、子育ての真っ最中です。

子宮頸がんは、20代～40代の出産・子育てを行う世代に多く、治療によっては子供を産めなくなる可能性があります。医療技術が進歩し、がんの生存率も高くなり、多くの人が自立した生活に戻ることができるようになった現代、治療後のさまざまな人生の選択肢が私たちの目の前に広がっています。

一方で、温かい家庭を必要としている子どもたちがおり、一人でも多くの子どもが幸せに暮らせる支援が求められています。里親・養子縁組は、私にとって、自己実現と社会貢献が結びついた一つの選択でした。

オレンジティをはじめとした活動や私自身の家庭生活の中で、社会的な母＝「グローバルマザー」として、新しい家族の形を提案したり、娘の幸せな将来を考えたりしながら、今後もできることから未来につながる活動をしていきたいです。



『グローバルマザー：子宮頸がん闘う女性たち』
 (河村裕美 静岡新聞社 2012年)
 子どもは産めなくなっても“社会的な母・グローバルマザー”になることはできる。河村さんの闘病体験から生まれた活動が啓発の輪を広げています。子宮頸がんの告知から手術・後遺症との闘い、「オレンジティ」起ち上げと活動の様子をまとめた1冊です。



『わたしたち里親家族！：あなたに会えてよかった』
 (東京養育家庭の会みどり支部//監修 坂本洋子//編集 明石書店 2008年)
 「家族はつくっていくもの」ということを里親家族はその体験から知っています。子どもに対して真剣で誠実であろうとする里親の姿は、一般家庭の子育てにも参考になります。里子を迎え入れた13家族を紹介し、里親制度について解説します。

★冬のキッズ・コーナー！

日時：平成30年2月2日(金)～28日(水)
 場所：2階あざれあ図書室 ※2月4日、18日は休館日です。

●子育て応援本、勢揃い！

子育てコミックエッセイ・ワーキングマザー・イクメン・孫育てなど、子育てを応援する本を特設展示します。



●おりがみワークショップ「コマを作ろう！」

2/3 2/17
 14:00～15:00

おりがみ3枚を使って、よくまわるコマを作りますか。

参加無料・申込不要。あざれあ図書室カードをお持ちの方限定です。

●ピース・キャンペーン

あざれあ図書室の本・雑誌や映画など、いつもの2倍借りられます！コミックの大人借りもおすすめてです。本は5冊→10冊 DVDは2本→4本 ※貸出期間は2週間です。



あざれあ図書室 利用案内

貸出：図書5冊、ビデオ・DVD2本(2週間)
 開室時間：月～金 9:00～18:00 土日祝 9:00～17:00
 休室日：第1・3・5日曜日、図書整理日
 TEL：054-255-8763 / FAX：054-255-8759

地域のハンサムウーマン⑫ ～地域力を高める女性たち～

浜谷 友子さん (NPO 法人 ^{ライフ}かわね来風 理事兼事務局長/川根本町)



●いつまでもここに住んでいたいと思える町に

人口約 7,000 人。自然豊かな山あいの町、川根本町。この町で、ひととき目を引く魅力的な活動でまちづくりに取り組んでいるのが NPO 法人かわね来風だ。

浜谷友子さんは 10 年ほど前、町の人口減少、少子高齢化による地域コミュニティの消滅を懸念する仲間たちと共にかわね来風を立ち上げ、行動を開始した。

以来、「三ツ星オートキャンプ場」の管理運営をはじめ、農家に滞在しながら農業体験ができる「グリーンツーリズム」、高齢者宅配サービス「ママ宅」、地元の農産物や農産加工品を販売などする「食と遊びの三ツ星村」、高齢者向けお手伝いサービス「ちょいサポ」などさまざまな事業を起こして地域をコーディネート。町外から川根本町へ観光客を呼び込んだり、移住を促進したり、あらゆる世代の町民がつながり、ふれあい、交流できる場をつくらせることで、持続可能なまちづくりを目指してきた。

このうち県外の市町からも熱い注目を集めている「ママ宅」は、子育て中のママたちが子どもと一緒に、高齢者にお弁当や日用品を届ける宅配サービス。川根本町では、高齢者の独居世帯が全世帯の3分の1を占める。また、集落が山間部に点在し、車の運転ができない高齢者は外出が難しいため、一日中誰とも話すことなく過ごしている人もいる。そこでママたちは、物を届けるだけでなく、同時に利用者の健康状態等の見守りも兼ね、子どもを介して利用者と世代を超えて交流する。

「この事業は、高齢者支援にとどまりません。小さな子どもを抱えて家にこもりがちなママが外へ出るきっかけをつくり、利用者とのコミュニケーションをとることで、ママたちにとっても学びや気分転換になりますし、子どもにとってもお年寄りとのふれあいで心の成長につながります」と浜谷さん。

「若いときは考えませんでした。子どもを産み親になったあたりから、自分が死んでからも、子どもや孫やその先の世代が、いつまでもこの地域で、また別の地域に移り住んだとしても、そこで安心して幸せに暮らせることを願うようになりました。それが私の一番最初の活動動機です。それは、今現在、私自身がこの町で幸せに住み続けるためでもあります。そして、この町で育った子どもたちが、町外に出てもここでの生活を思い出し、別の地域の力になってくれたらと思います。」

★多様性の尊重により、新たな価値を生み出す

オフィスでおなじみのリコーの複合機やプリンター。リコージャパン(株)は 1959 年の創立以来、これらの商品・サービスの提供を通して、私たちの仕事や生活の質の向上に貢献。世の中の役に立つ新しい価値を生み出し提供しつづけることで、持続可能な社会づくりを目指す「リコーウェイ」を事業活動の理念としている。

そしてこの理念にもとづき、ダイバーシティ推進やワークライフ・マネジメントなど、社員一人ひとりが能力を発揮し、生き生きと働ける職場環境づくりに取り組んでいる。

そのうちのひとつ「ポジティブアクション研修」では、女性社員の長期的な成長を実現すべく、能力と意欲のある女性社員を次世代リーダー候補として早い段階から育成するとともに、対象社員の上司に向けた研修も行っている。2013 年度に開始したこの取り組みにより、3.17% (2014 年) だった女性管理職比率は 4.42% (2017 年) にまで伸び、着実に成果を上げている。

その他「働き方改革」として、効率よく生産性を上げるため、残業時間管理の徹底や会議時間の短縮、各種資料の最小化への工夫、「復職支援セミナー」では、仕事と家庭の両立に関する講義やロールモデルの事例発表などを通し、復職後の不安を軽減できる機会を設けるなど多様な視点から組織の制度・環境整備を進めている。

静岡支社では全社での取り組みをベースに、働き方・キャリアアップに関するさまざまな制度を各委員会やプロジェクトを通して積極的に広げている。産休・育休後の復職率は 100%、男性の育休取得者も出てきている。これらの着実な実績が認められ、今年度、男女共同参画社会づくり活動に関する知事褒賞を受賞した。

静岡支社で営業を担当している望月 鮎美さんはリコージャパンに勤務して 9 年。2 回目の産休・育休を 1 年間取得し昨年 9 月に復職した。

「1 回目の休職時には、営業職での産休・育休の実績がなく、復職する際にはたして元の営業職に戻れるのか不安でした。理解のある上司や同僚に恵まれ、希望する営業職に戻ることができました。昨年 9 月に復職してからは、2 人目の子どもがまだ小さいため、欠勤せざるを得ない日も頻繁にあります。そんな時、上司が嫌な顔ひとつせず理解を示してくれたり、同僚のサポートもあったりすることが非常にありがたいです。

仕事と育児の両立は難しい面も多々ありますが、当社の両立支援制度や協力体制のおかげでやりがいを持ちながら働き続けることができていると思います」。

就労に関する全社員の意識変革により、社内に新しい雰囲気がかじかじかと醸成されつつあるリコージャパン。男女問わず、一人ひとりの社員がライフステージに応じた多様な働き方を選択・実現できる環境づくりを目指しチャレンジを続けている。



望月 鮎美さんと上司の神田 直哉さん

あざれあ相談

悩んだとき、困ったときには、あざれあへ

女性相談

すべて女性の相談員、医師、弁護士による相談です。安心してお電話ください。

☎

0558-23-7879 賀茂
055-925-7879 東部
054-272-7879 中部
053-456-7879 西部

※混み合う場合がございます。時間をあけておかけ直してください。

月・火・木・金 9:00 ~ 16:00
 水曜日 14:00 ~ 20:00
 第 2 土曜日 13:00 ~ 18:00

※いずれも日・祝を除く

面接

要予約・託児つき・無料
あざれあ女性相談の番号におかけください。

| 月 | 火 | 水 | 木 |
|-----------------------------|--------------------------------|-----------------------------|-----------------------------|
| DV・ その他暴力 10:00~15:00 | 第3 弁護士相談 13:00~16:00 | DV・ その他暴力 14:00~19:00 | DV・ その他暴力 10:00~15:00 |
| | 偶数月第4 精神科医相談 14:00~16:00 | | |

男性電話相談

生き方・家庭・仕事・健康等の悩み、男性相談員が対応します。

毎月第 1・3 土曜日 13:00 ~ 17:00

※つながらない場合は、少し時間をおいてかけ直してください。
 ※第 1・3 土曜日が休館日の場合、次の週の土曜日に相談を実施します。

専用電話 054-272-7880